

平成29年度良質な医師を育てる研修 「神経・筋(神経難病)診療初級・入門研修」

柳井医療センター副院長 宮地隆史

国立病院機構の役割の1つとして神経・筋難病医療は重要かつ、その担い手として期待されている領域です。今回、2017年7月14日～15日に「良質な医師を育てる研修／神経・筋(神経難病)診療初級・入門研修」を広島市で開催しました。

今年度は神経内科に興味のある卒後5年目程度までの研修生を募集。定員20名に対して全国から23名の参加がありました。卒後3年目までが87%を占め、フレッシュで熱意ある研修生が集まりました。また、講師の多くは神経・筋領域のエキスパートである機構病院の院長、副院長、部長が全国から集まり、All Japan体制で臨みました。

今回の研修の柱は「①ロールプレイを通じて学ぶ神経疾患、②筋萎縮性側索硬化症(ALS)患者から若手医師へのメッセージ、③非侵襲的人工呼吸器(NPPV)の体験・呼吸リハビリテーションの実践、④神経難病の救急から在宅医療」でした。

研修初日は午前中に神経診察に重要な医療面接、神経学的所見の取り方の双方向セミナー、午後はグループワーク(GW)を行いました。GWでは研修生全員が神経・筋疾患をそれぞれ思い描き、病歴・神経症状などのシナリオを作成。医師役、患者役に分かれてロールプレイを行いました。各グループには2名の指導医がつき、神経診察や疾患についてアドバイスしました。

また、GWに入る前には、ALS患者で、広島県ALS協会の支部長・三保浩一郎先生に「ALS

恐るに足らず・呼吸器を装着した歯科医」とのタイトルで講演をしていただきました。三保先生は広島大学歯学部を卒業後、歯科医として開業中にALSを発症。現在、人工呼吸器を装着し、視線入力装置を用いてコミュニケーションを取りながら在宅生活をされています。当日は奥様、ヘルパーさんと一緒に来場され、先生自ら作成・編集したスライド・動画を用い、外出の様子やご自身が体験してきた医療者との関わりなどについてお話いただきました。ALSになってもコミュニケーションツールを駆使して「今できることを精一杯やる!」という三保先生からのメッセージは若い先生方だけでなく、講師陣にとっても印象深い講演となりました。

2日目は、各グループの代表による発表(ロールプレイ)があり、準備のため早朝から演技の練習をするなど、発表会は大いに盛り上がりました。

午後はNPPVの講義に続き、NPPV体験、NPPVマスクフィッティング手技習得、機械的排痰補助装置体験、理学的呼吸リハビリテーションのハンズオンを実施しました。日頃は忙しく、自分自身で体験する時間がなかなか取れないものです。今回の研修で実際に体験しながら熱心に質問している研修生の姿が印象的でした。

最後は座学の講義を2つ企画しました。神経・筋難病には救急対応も必要です。また、在宅医療を望む神経・筋疾患の患者も増えています。講義では神経救急および岡山県で在宅医療をなさっている難波玲子先生に神経難病患者の緩和ケアを中心にお話いただきました。医師としての経験を積むとともに係ることが増えるのが在宅医療です。研修生にとっては早い時期にエキスパートから話が聞ける良い機会になったと思います。

研修会終了後に行ったアンケート調査では、研修全体について「とても良い43%、良い57%」と“良い”以上が100%と非常に高評価でした。

今回の研修を通じて1人でも多くの研修生が神経内科医に魅力を感じ、良い神経内科医を目指して日々研鑽し、神経・筋難病医療に貢献していただくことを期待しています。



研修終了後の記念写真

平成29年度 良質な医師を育てる研修 「神経・筋(神経難病)診療初級・入門研修」

対象：神経内科に興味のある
卒後5年目程度までの研修医

日時：平成29年7月14日(金)～15日(土)

会場：TKPガーデンシティ PREMIUM 広島駅前

参加者：23名

■ 研修内容

1日目

講義 病歴聴取
参加型セミナー 神経系統診察の確認
特別講演 「ALS恐るに足らず・呼吸器を装着した歯科医」
ALS協会広島支部長 三保浩一郎 先生
グループワーク ロールプレイ学習

2日目

講義 日本の難病医療制度
実習 ロールプレイ学習・発表会
ランチョンセミナー 非侵襲的陽圧換気(NPPV) 療法の基本
ハンズオン実習 NPPV体験、マスクフィッティング、
非侵襲的排痰補助装置、呼吸理学療法の手技
講義 神経・筋疾患救急の診かた
神経疾患と在宅医療

参加者の声

参加者の声 1

自分で症例を考え、演じるロールプレイはとても勉強になりました。検査所見を見る機会はありませんでしたが、実際にやると所見についてより深い理解が必要だと感じました。ALSの方の生き方や考え方に触れられたのも良かったです。

参加者の声 2

ロールプレイや体験型の実習を通して診察のクセや注意点を指摘していただき、自分を振り返る良い機会になりました。1人よがりにならないためにも人に見てもらうのは必要ですね。

参加者の声 3

神経診察の手技を再確認できたのが収穫でした。我流になっていたり、勘違いしていたりした点が明確になりました。また、所属病院で滅多にない神経難病についても学べ、勉強になりました。



ロールプレイ学習 病歴、神経所見のシナリオ作成



ロールプレイ学習 模擬診察の指導